会議結果報告書

令和4年7月27日

会議の名称	令和4年度 第2回志木市廃棄物減量化資源化等推進審議会
開催日時	令和4年7月27日（水） 13時15分～15時00分
開催場所	市役所 3階 大会議室3-2（監査室）
出席委員 及び 関係機関	大村相哲会長、清水賢三副会長、田中源雄委員、山口秀子委員、 時田英司委員、関根正男委員、内野由浩委員、近藤豊委員 （計 8人）
欠席委員	なし （計 0人）
説明員	（計 0人）
議題	（1）志木市一般廃棄物処理基本計画（第3次）の諮問について （2）その他
結果	審議内容の記録のとおり （傍聴者 0人）
事務局職員	香川市長（諮問のみ）、松井俊之市民生活部長、末永隆宏環境推進課長、 増田一男副課長、清水義博主席主幹
署名	（議長） （署名人）
審議内容の記録（審議経過、結論等）	
<p>1 開会</p> <p>2 市長からの諮問</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議題</p> <p>（1）令和4年度一般廃棄物処理基本計画（案）について</p> <p>会長）</p> <p>それでは、次第に沿って審議会を進めさせていただく。最初に令和4年度一般廃棄物処理基本計画（案）について委員の皆様からご意見をいただきたい。</p> <p>事務局）</p> <p>最初に、本計画（案）は、国の「一般廃棄物処理基本計画策定指針」に沿って策定させていただきました。しかしながら、その中でも環境推進課において記載の必要がないと判断した内容については記載しておりません。</p>	

委員)

まず、本計画(案)内に記載されている「ごみ処理体制」の内容が分かりづらい。「収集方法」に関する内容を明確にするべきと考える。

事務局)

承知いたしました。修正いたします。

委員)

本計画(案)には、外国人の人口状況の記載をするべきだと考える。町内会のある集合住宅の役員の話では、近年外国人の入居者が増加しているとのことである。また、その外国人に対してごみの分別の説明をしても理解していただくことが困難な状況とのことだ。今後外国人人口の増加が見込まれる中で、その対応策を講じることは重要であり、本計画(案)の中にその内容を盛り込むべきと考える。

事務局)

承知いたしました。本計画(案)に「外国人の人口」を示すとともに、その対応策についても記載してまいりたいと考えます。

委員)

現在の外国人の人口を把握しているのか。

事務局)

約2,000人です。

委員)

外国人に対してごみの分別の説明をしても理解していただくことが困難な状況の中で、不法投棄の事案も発生している。現在はこのことに対して何らかの対策を講じているのか。

事務局)

本市では以前から「ごみ分別指導員」や「市民クリーンパトロール員」を採用し、不法投棄への対策を講じております。

委員)

本市で発行している「ごみの出し方」のリーフレットの多言語化を図るべきだと考える。他市ではスマートフォンを活用した情報発信を行っている。

事務局)

予算措置をする必要があるため、慎重な検討が必要と考えます。

委員)

資源プラスチック関連の専門用語の説明などには「You Tube」動画を活用することも対策の候補に挙げられる。例えば、「ごみの出し方」のチラシに「QRコード」を載せた上で、「You Tube」動画を見られるような仕組みも必要と考える。また、今後、クリーン作戦をはじめ様々なイベント、お祭りの際に「ごみの出し方」のチラシを配ることも有効と考える。

委員)

チラシを作成するのであれば「QRコード」を載せつつ、問い合わせ先を明記した方が良いと考える。

委員)

町内会長に対して、ごみの出し方について近隣との「仲裁」を求めてくる市民がいる。しかしながら、それは町内会の役割ではない。また、もちろんごみ集積所を使用することやごみ当番を担当することは、町内会の加入要件ではない。

委員)

本計画(案)の計画期間は、令和5年度から同14年度までの10年間である。10年後には世帯の高齢化や核家族化が進み、集積所の「ごみ当番」が出来る市民がいなくなる可能性が高い。そうすると、本計画(案)を作成していく中で、ごみの「戸別訪問収集」についても議論せざるを得ないのではないだろうか。

事務局)

現時点では、本計画(案)の中に、「ごみの戸別訪問収集」の事業化を記載することは時期尚早であると考えます。また、現時点でその実現が困難と考えられる大規模な施策については、記載することを避けたいと考えます。本計画(案)の中には、各種施策を載せてありますが、大きく予算措置の必要性があるものについての記載は難しいと考えています。

委員)

外国人の問題については、本市だけでなく他自治体でも課題であると考えます。今後、他自治体と情報交換をしながら、外国人が尊重されるような「ごみ出し」の施策を考えて行く必要がある。志木地区衛生組合で会議の場を設けた上で、議論してはいかがだろうか。また、各種イベントを通じてチラシの配布を行うことで「ごみ出し」のルールに関する啓発を図ることも考えられる。

委員)

いずれにしても、本計画(案)の中には、具体的な施策でなくても外国人対策の内容を記載するべきで、今後の10年間のごみ処理体制を見据えた内容であるべきだ。

事務局)

承知しました。本計画(案)の中に外国人に対する施策について記載してまいります。

委員)

前計画(平成25年度から令和4年度まで)と、これから策定して行く新計画との差を示して欲しい。

事務局)

前計画では、市内事業者に対して「ごみの減量化」や「ごみの資源化」に向けての直接的な指導を行うことを記載しています。このごみの減量化や資源化については、同事業者の協力を得ないと不可能ですが、一方で、同事業者のごみの減量化を強く求める事は、事業活動を減退させるものと勘違いされる可能性があります。

また、令和2年度の事業系ごみの排出量は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度比で減となっております。このことから、同事業者には事業活動の活発化を望んでいるところでありますので、新計画にはごみの減量化等の表現方法を柔らかくいたしました。

委員)

そもそも、集積所に出す「ごみ」は、集積所に出す前では「ごみ」という理解でよろしいのか。

委員)

市民からすると集積所に出した時点では「ごみ」として出すはずだ。しかしながら、資源化を図っている事業者側からするとそれは「資源物」である。

委員)

先ほども委員から意見があったが、今後10年後のごみ処理体制を考えた場合、ごみの減量化や資源化を図るには、税金による収集運搬とは別に、有料化導入の議論も必要なのではないか。

事務局)

繰り返しとなりますが、現時点では、「ごみの戸別訪問収集」については時期尚早であると考えます。

委員)

今後10年後のごみ処理体制をしっかりと考えることが必要だと考える。ごみの有料化とまでは言わないまでも、世帯の高齢化や外国人の人口増が見込まれる中で、今後は収集運搬に係る経費が増加していくとの内容を本計画(案)の中に記載するべきだろう。目的はごみの減量化であり、有料化はごみ減量化の手段の一つに過ぎず、したがって議論はあってもよいと考える。

委員)

一方で、ごみの有料化は、不法投棄や不適正排出が増加する可能性がある。その対策には相当程度の経費が発生するはずであり、いずれにしても、慎重に検討を重ねる必要がある。

委員)

本計画(案)の中に、「ごみの有料化」の記載をすることにより、その文言が「一人歩き」してしまうことが心配であり危惧するところだ。

委員)

本計画(案)内に記載されている「家庭系ごみの一人一日当たりの推移」の図について意見がある。前計画の中でも良いと考えられるものは引き継いで行きたい。この中で、本市のごみ行政の基本理念や基本方針をしっかりと載せるべきだと考える。したがって「4R」をもっと強調するべきではないだろうか。

また、本計画(案)内に記載されている「家庭系ごみの一人一日当たりの推移」のグラフだが、ここに掲載されている本市の令和3年度の決算値「597グラム」は、埼玉県内の自治体の平均値と比較して十分低い状態にある。この数値は、本市のごみ減量化に対する成果を表わしているもので評価出来るところだ。

委員)

それであれば、この図に埼玉県下の自治体の平均値を重ね合わせれば、より良く本市の数値が低いことを示すことが出来るのではないかと考える。

事務局)

承知いたしました。本市の数値とともに埼玉県下の自治体の平均値を記載いたします。

委員)

グラフの扱い方には工夫が必要だと考える。数値を時系列で掲載するだけでなく、比較する対象があれば重ねる形で掲載した方が良い。

事務局)

事務局から議論いただきたい事項があります。お手元にお配りした資料は、ごみ減量化に係る本市が目指すべき「一人一日当たりの目標値」の案で、この度2案用意いたしました。1案目は志木地区衛生組合の一般廃棄物処理基本計画(改訂版)を踏まえたものとなります。いずれにしても、10年間でどこまでごみの量を減らしていくかの目標値についてご意見を願います。

事務局において、案1と2の内容を説明。

委員)

意見等は次回までの検討でよろしいか。

事務局)

大丈夫です。よろしくお願いいたします。

また、次回の第3回目の審議会は、9月下旬を考えております。ご都合はいかがでしょうか。

委員)

9月下旬の開催予定で承知した。

事務局)

ありがとうございます。それでは、9月27日か30日で調整した上で、9月上旬に委員皆様に通知いたします。

5 閉会

副会長) 閉会のあいさつ

以上